

味の素グループにとっての重要な事項 (マテリアリティ)

アミノサイエンス®による Well-being

4. 価値共創 (ASV)

- 4.1 Living well
健幸寿命
- 4.2 Co-wellbeing
コー・ウェルビーイング
- 4.3 Value creating solutions
ソリューションによる
価値創造

1. 共創力

- 1.1 Transformative
innovation capability
変革能力
- 1.2 Transparent & objective
透明性・客観性
- 1.3 Constructive engagement
for co-creation
共同力



味の素グループにとっての重要な事項 (マテリアリティ) は、味の素グループが長期にわたり持続的に社会価値と経済価値を共創し続けるための重要な事項です。

重要な事項 (マテリアリティ) は、経営や従業員の思いや考え、社外のステークホルダーからの様々な期待等が反映されるプロセスで策定しており、事業戦略に密接に関わっています。また、志 (パーパス)、そして現場での取り組みとも深くつながっています。

マテリアリティ関係図が示すもの

このマテリアリティ関係図では、アミノサイエンス®の力や可能性 (Scientific Possibilities) と、人・社会・地球の Wellbeing に貢献するストーリーの力 (Story of Well being) を結び付けてこのサイクルを回すことで、サステナブルに成長していくという考え方を示しています。①共創力を磨き、②生活者視点をもって③ Wellbeing を実現し、

事業活動を通じて④共創された価値を還元していきます。

そしてこれらをつなぐ環は、インフィニティ (永遠) を象徴しており、①から④をつなげて回し続けることで、サステナブルに社会価値と経済価値を共創し続けるという意味を込めています。



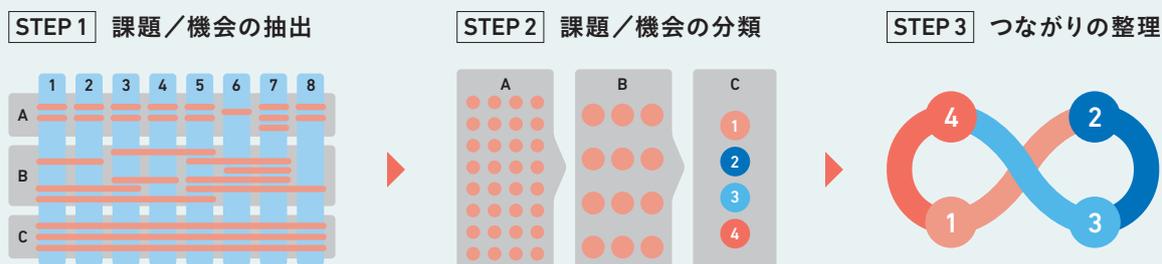
2. 生活者視点

- Holistic & inclusive perspective
ホリスティック&
インクルーシブ視点 **2.1**
- Local community perspective
地域コミュニティー視点 **2.2**
- Future generation perspective
未来世代の視点 **2.3**

3. ウェルビーイング

- Human wellbeing
ヒューマン・
ウェルビーイング **3.1**
- Community wellbeing
コミュニティー・
ウェルビーイング **3.2**
- Planetary wellbeing
地球のウェルビーイング **3.3**

策定のプロセス



業務執行側で考える2030年、その先の未来についてサステナビリティ 諮問会議へインプットし、サステナビリティ 諮問会議からのフィードバックのプロセスを経て、2050年を見据えた長期視点・マルチステークホルダー視点でマテリアリティを検討しました。

重要なステークホルダーを代表するサステナビリティ

諮問会議のメンバーが、それぞれの立場を代表して重要な課題/機会を抽出。変革とイノベーションを持続的に実現していくプロセスとして、それぞれの課題/機会のつながりを整理しました。こうした独自の整理の仕方によって、課題の整理にとどまらず、長期視点の取り組み方も示しています。

*味の素グループにとっての重要な事項（マテリアリティ）に関わるリスクと機会は、第145期有価証券報告書に記載しています。
また、各マテリアリティに対して当社グループとしてどのように取り組むか、そのKPIは、「サステナビリティレポート2023」で開示しています。